



平成23年度加盟団体通常総会開かる!

平成23年度通常総会は5月21日に県協会本部事務所で加盟団体の代表者等13名が出席して行われた。樋口会長より、東日本大震災への義援金のお礼を兼ねた挨拶の後、平成22年度の事業報告、収支決算報告、本年度の事業計画等が承認された。

春季指導者講習会に13名が受講!

5月21日 益城町総合体育館

平成23年度春季指導者講習会は、この程、益城町総合体育館に、県内から10名、特別参加として鹿児島県同好会からの3名が参加し、約7時間に亘って行われた。講師は、国際師範である樋口悦夫県協会会長が務め、午前中の講義では、テコンドー指導者としての心構えや、テコンドーの歴史等についてのレクチャー、午後からは、基本技、ブンセ、キヨルギ論等を行った。県協会では、年2回の指導者講習会に加え、昨年から実施している黒帯研修会を開催するなど、教育事業に力を注ぎ、質の高いテコンドー人の育成を目指している。



実技講習

新理事に泉圭司託麻支部長、樋口清輝武道館支部長が就任

5月の県協会加盟団体総会にて福永哲法理事、有働公一理事の退任を受け、泉圭司 託麻支部長、樋口清輝 武道館支部長の2名が新理事として全会一致で承認された。泉理事は県協会の発展のために微力ながら努力しますと決意を語り、樋口理事はもうしばらくは選手との兼任ではあるが熊本のテコンドーのために頑張りたいと語った。両名の活躍に期待したい。



阿蘇道場、ジュニア強化合宿を実施! 5月28~29日 阿蘇青少年交流の家

この程、西村紀幸阿蘇支部長は、阿蘇道場のジュニア強化を図るため、2日間に亘り強化合宿を実施した。今年は、九州大会が地元熊本での開催となるが、5月22日に開催された長崎でのオープン大会でも、九州各県のレベルもここにきて一段と上がって来ていることなどから、独自に強化合宿を実施した。参加したジュニア選手は、大きな気合を入れながら熱心に取り組んでいた。

県体育協会、新会長歓迎会盛大に! 6月16日 熊本テレサ

今年3月、事故で亡くなられた故永野光哉前会長の後任として肥後銀行頭取の甲斐隆博氏が新会長となり、その歓迎会が熊本テレサで行われた。歓迎会には加盟競技団体等から約250名が出席、テコンドー協会からは樋口会長、西田事務局長の2名が出席した。甲斐会長は今秋に肥後銀行内でも陸上部を創設するなどスポーツに対して積極的な理解を示し、今後の県スポーツ界のリーダーとしての活躍が期待される。また歓迎会に先立って開催された評議委員会には、県テコンドー協会評議員である西田事務局長が出席、前年度事業報告、本年度事業計画などが承認された。



樋口会長、グリーンロータリークラブ例会で講演!

奉仕活動を通じて社会に貢献されている団体の一つである熊本グリーンロータリークラブ（30社）は、8月1日にホテルキヤッスルで101回の例会を行ったが、今回講演を依頼された樋口会長が約30分にわたりテコンドーについて語った。講演に先駆け樋口清輝、金村康生の各指導者と大学生3名による板割りのデモンストレーションもあり、初めて観るテコンドーの技にどよめきが起きた。講演後には熊本グリーンクラブより県テコンドー協会に協賛金が贈られ、今後3年間テコンドーを支援することが決定された。県協会からは感謝状が贈られ、終始和やかな会となつた。

JOC オリンピック有望選手に阪上弘一選手、 指導者奨励賞に園田裕文師範が選ばれる

この度、平成23年度日本オリンピック委員会平成23年度オリンピック有望選手に宇土支部の阪上弘一選手が選ばれた。また指導者として同支部の園田裕文師範が奨励賞を授与する名誉となった。オリンピック有望選手は全日本、ジュニア大会等での活躍等が評価されたもので全日本の若きホープの一人として今後に期待したい。



夏季強化合宿 74名が参加! 8月6~7日 阿蘇青少年交流の家

県協会主催の夏季強化合宿は、この度8月6日~7日の2日間にわたり阿蘇青少年交流の家で行われた。今回の合宿には韓国、豊生高から3名の選手が特別参加しキヨルギを中心としたメニューで21日の九州大会の強化に繋がる合宿となった。ジュニア選手の参加も30名を越え、暑い体育館の中で汗をかきながらも頑張っていた。

テコンドーくまもと Vol.35 TAEKWONDO KUMAMOTO 2011.5 ▶ 2011.8



来賓・大会役員記念撮影

11階級で優勝15階級で準V! 第22回全九州テコンドー選手権大会 8月21日 合志市ヴィーブルメインアリーナ

第22回全九州テコンドー選手権大会は、熊本県合志市で沖縄、九州全県から245名の選手が参加して盛大に開催された。

開会式では荒木義行合志市長の挨拶に続き、江上康弘熊本グリーンロータリークラブ会長、樋口悦夫大会会長の挨拶の後、津田ひかる選手、阪上弘一選手による選手宣誓が行われた。

試合は幼児から一般までの38階級で熱戦が繰り広げられ県勢は66名がエントリー。一般男子 -74 kg 級で阪上弘一選手、+74kg 級で牧野信一選手、女子 -46・-49合同級で津田ひかる選手が優勝し、結果、優勝1名、準優勝15名、3位入賞18名の計44個の過去最多のメダルを獲得した。

九州各県では来年開催予定の佐賀県の活躍が著しく来年へ向けての大きな収穫となったようだ。尚、大会の模様は当日の昼、夕方の NHK ニュースで放送された。



赤・津田ひかる選手



一般男子 -74kg 級の試合



大会ハイライト

HIGHLIGHT

※大会結果の詳細はホームページに掲載

第17回県学生選手権大会、中山北斗(学園大)がV! 5月7日 熊本大学新体育館

今年の県学生選手権大会は、熊本大、崇城大、熊本学園大のテコンドー部から男子のみの一階級にて開催された。開会式では、北里勝義県協会副長の挨拶に続き、熊本大学テコンドー部顧問、松瀬憲司先生の来賓挨拶が行われ、選手を激励。その後試合が行われた。

決勝は学園大、中山北斗選手と熊本大、士師正穂選手の戦いとなり、終始試合をリードした中山選手が勝利した。個人戦終了後、牧野玉名支部長、不知火支部の中学生、西田亮選手等も含めてのサンドレス大会が行われ、大いに盛り上がりを見せた。結果優勝した神垣貴晶選手(熊本大)には県協会からナイキのテコンドー衣が贈られた。



試合風景



ONE オープン大会、県勢5階級で頂点に! 5月21日 長崎県立総合体育館

恒例大会となっている「ONE オープン選手権大会」は、長崎県立総合体育館に、主催県長崎を中心に九州各県から約160名の選手が参加し盛大に行われた。今回、電子防具の試合も実施されるなど、一段と躍進する ONE オープン大会、熊本からは16名の選手が出場5階級で優勝を飾った。

阿蘇道場8階級でV! 第17回県選手権大会 6月5日 熊本市富合雁回館体育館

第17回県選手権大会は、この程富合町雁回館体育館に県内各道場、大学などから118名が参加して開催された。園田幸二県協会副会長の挨拶に続き、ブンセ競技からキヨルギへと試合が行われた。ブンセ競技ではまとまつた演技の託麻道場が団体、個人ともに優勝を飾った。今回、九州大会の選考も兼ねるキヨルギでは今年から全日本上位入賞の選手の出場が認められることとなり、今年の全日本で優勝した津田ひかる選手、準優勝の牧野信一選手、3位の阪上弘一選手、昨年度3位の中山北斗選手などが出場。レベルの高い試合に会場は大いに沸いた。また、ジュニアでは阿蘇道場が8階級で優勝する躍進をみせ、保護者の声援も一段とヒートアップ。昨年以上に活気ある大会となった。九州大会出場者は今大会の各階級上位2名を基準とし大会終了後の選考会議で65名が決定された。熊本県協会主催の九州大会。選考された選手には県代表として是非頑張ってもらいたい。



全員メダルGET! 青龍会オープン 6月12日 神戸市

兵庫県協会(金珍秀会長)が主催する第6回青龍会オープン大会は、地元兵庫県を中心に関西、九州等からの選手約140名が参加し神戸市で開催された。熊本県からは、阿蘇道場のジュニア選手5名が参加。小学男子初級-23kg級の部で飛田愛斗選手が優勝した他、中学生上級は電子防具で試合が行われ、女子上級では西村真利愛選手が準優勝、小学女子上級+34kg級で米田優選手が準優勝、-34kg級で山本悠菜選手が3位、小学男子上級46kg級で森永修斗選手が3位となり、出場した全員がメダルを獲得する好成績を収めた。阿蘇道場では独自に強化合宿を実施したり各地のオープン大会へ積極的に参加したりと、選手の強化に力を入れているが、その成果が徐々に表れて来ているようだ。今後の阿蘇道場の活躍に期待したい。



一般男子試合



中学生男子試合



森永修斗選手の蹴りがヒット

大会ハイライト

HIGHLIGHT

※大会結果の詳細はホームページに掲載

平成23年度熊本市杯・第3回熊本市テコンドー選手権大会 7月10日 熊本県民運動公園体育館

第3回熊本市テコンドー選手権大会は、去年から熊本市杯スポーツ大会テコンドー競技として熊本市テコンドー協会、熊本市、熊本市体育協会が主催する大会。今年は、熊本市内の6道場3大学から58名が参加して、キヨルギとブンセの2競技で試合が行われた。

開会式には来賓として松山優喜、熊本グリーンロータリークラブ幹事が挨拶、「今年から3年間に亘り県テコンドー協会を物心両面から応援することが決定しました。選手の皆さん、目標をもって頑張って下さい。」と激励の挨拶に続き、熊本市協会から韓国で開催される春川オープンに出場する廣田兄弟に激励金が贈られた。その後ブンセから試合が行われ、キヨルギの試合では初めて大会を経験する選手も多く、県選手権等の登竜門的な大会としての役割も果たしている今大会。ジュニアでは、水前寺支部の森山海路選手の活躍が目立ち、最優秀選手賞を獲得した。



記念撮影

第8回春川国際オープンテコンドー選手権大会 7月14~19日 韓国江原道春川



表彰式 (写真右: 阪上選手)

韓国内での国際オープン大会では最大規模の春川オープン、今年は世界50ヶ国から多くの選手が出席。日本からは強化指定選手を含めた17名が出席した。熊本県協会からは津田ひかる、阪上弘一、西村純、廣田翔栄、廣田龍信の5名が出席。阪上弘一選手はシニア-74kg級及び、オリンピック-80kg級にエントリー。-80kg級で大健闘し3位入賞、銅メダルを獲得した。また、ジュニアカラーベルトの部で廣田龍信選手が優勝を飾り、県勢は2個のメダルを獲得する活躍となった。全日本王者の津田ひかる選手も初戦のウズベキスタンの選手に1ポイント差で敗れたがウズベキスタンの選手がその後勝ちあがり優勝。惜しい戦いとなった。また韓国留学中の西村選手は初戦、2回戦と勝ちあがり、準決勝をかけたロシア選手との試合では、ポイントリードしながら最後の数秒で逆転されメダルには届かなかった。また、ジュニアの部に出場の廣田翔栄選手も健闘するも上位進出はならなかった。阪上選手、廣田龍信選手とも国際大会初出場でのメダル獲得は嬉しい限り、今後の更なる活躍を期待したい。



阪上弘一選手

熊本選手団

JOCカップ全日本ジュニア選手権大会 7月31日 長野県松本市総合体育館

JOCカップ全日本ジュニア選手権大会は7月31日、長野県松本市総合体育館に全国の小学生から高校生までが集い熱戦を繰り広げた。県協会からは14名が出席、高校生ミドル級で阪上弘一選手(宇土)が昨年に続く2連覇。また、中学生バントム級で廣田翔栄選手(武道館)が共に優勝した。阪上選手は今月、韓国で行われた春川国際オープンでも3位入賞を果たす等、全日本のジュニアホープとしても今後が楽しみな選手の一人と言える。県勢は小学4年男子で住大翔選手(阿蘇)が最多の試合数5試合を戦い惜しくも決勝で敗れたが堂々の2位。また、小学5年女子で米田優選手(阿蘇)が健闘し2位となった。中学生も健闘し西田亮選手(不知火)坂本大晟選手(富合)坂本百合奈選手(菊池)西村真利愛選手(阿蘇)の出場者全員が3位に入賞、高校生ライツ級では坂田賢誠選手(秀岳館)が3位入賞、小学生5年男子で森永修斗選手(阿蘇)も準決勝(4回戦)で敗れ3位。全部で10個のメダルを獲得する好成績となった。毎年参加者数も増えている全日本ジュニア選手権だが開催場所や小学生の体重階級制など検討すべき点もあるのでは。



記念撮影

タイガーカップ3名がV! 8月7日 大分県中津市ダイハツアリーナ

毎年開催される「タイガーカップオープン」は今年、大分県中津市に133名が出席して開催された。県協会からは8名の選手が参加し一般男子ライト以上級で野口嘉津馬選手(熊大)が優勝。また中学生の部で西田亮選手(不知火)、中学生女子で西村真利愛選手(阿蘇)がともに優勝を飾った他、小学生の部では奥村直矢選手(不知火)、木村暁選手(不知火)、住日向選手(阿蘇)が2位に入る好成績を収めた。